

017

福島県立医科

令和7年度保健科学部一般選抜試験

小 論 文

(時間：90分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は2ページ、解答用紙は3枚です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷の不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。また、句読点も1字として1マスに記入してください。
- 5 問題冊子の余白は適宜利用して構いません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみを回収します。

以下の文章を読んで設問に答えなさい。

男女を問わず、日本人には相手と「摩擦」を起こさないことが、優しさだと思っている人が多い傾向にあります。

相手の意見を否定しないとか、反論しないことが優しさと考えるのは、明らかな勘違いです。

(1) 欧米には、フランク注1)に自分の意見を伝えて、相手もそれを率直な意見として受け入れる風習がありますが、日本人には相手の気持ちを先回りして考えて、批判や反論を手控える傾向が強くあります。

それは日本人特有の奥ゆかしさでもありますが、自分の考えを伝えないことを優しさと考えるのは、やはり無理があります。

相手の気持ちを付度注2)して、言いたいことを言わないというのは、自分の主体性を犠牲にしているわりには、相手には何もメッセージが伝わりません。

何も伝わらないということは、相手のことに「関心がない」という、思惑とは正反対のメッセージを伝えることになります。

優しい人どころか、優しくない人と思われてしまうのです。

「摩擦を起こさない」という消極的な態度が、相手に優しさと映ることはほとんどありません。

自分の勝手な意見ではなく、相手の立場に立って考え、相手のためを思った結果が、「相手にとって厳しい言葉」であれば、面と向かってきちんとそれを伝えることは、間違いなく相手に対する優しさです。

その言葉に相手が気分を害すことがあったとしても、本当に大事なことであれば、後になって相手が喜んでくれたり、感謝されることになります。

目先の摩擦を恐れるあまり、意味のない付度をすることは、相手のピンチを見て見ぬふりをするのと同じです。

人に優しくあるためには、時には摩擦を恐れない「勇気」と「覚悟」を持つことも必要なのです。

注1) フランク：自分の気持ちや思ったことを隠すことなく、率直に相手に対する言動に示す様子。

注2) 付度：自分なりに考えて、他人の気持ちをおしはかること。

(和田秀樹：なぜか人生がうまくいく「優しい人」の科学 クロスメディア・パブリッシング
2024年 一部改変)

問 1. 下線部(1)について、筆者はなぜそのように述べたのか 200 字以内で説明しなさい。

問 2. 医療現場・介護現場において患者さんに関わる際の「優しさ」について、医療従事者を目指すあなたの考えを、本文の内容を踏まえて 600 字以内で述べなさい。